

能勢環境フォーラムに参加しました

11月23日（勤労感謝の日）に浄るりシアターで「能勢環境フォーラム」が開催され、本校生は、司会進行・発表・展示と全てにおいて参加し活躍しました。



ロビーでは、本校農業クラブを含む5つの団体が展示・説明を行っていました。3年生の水越遥さんが、「アカハライモリ」や「セミの抜け殻」について、小さな子どもからお年寄りにまでわかりやすく説明しました。生きているイモリの展示なので、みなさん興味を惹かれるようで、いつも誰かがブース前にいて熱心に観察し、水越さんに質問していました。

小ホールで行われた舞台発表では、生徒会役員2年生の岡田尚也君、1年生の後美祈子さんと木本千晶さんが協力して司会進行を務めました。最初は田尻小学校5年生のみなさんで、『2009年度田尻小学校の環境教育』と題して、「バタフライガーデン」や「樹木のラベリング」他についての発表でした。この「バタフライガーデン」は、



本校の清水教諭が小高交流で出前授業を行い、田尻小学校の子どもたちと作り上げたものです。色とりどりの花を植えることにより、たくさんの種類の蝶が学校で舞うようになった様子がよくわかりました。また「樹木のラベリング」は、本校の授業「花の文化 D」を受講する生徒と小学生が一緒になって行った交流です。最初は恥ずかしがっていた小学生も、作業が始まるとすぐに打ち解けて楽しく樹木にラベルを掛けていったと発表してくれました。本校と地域の小学校で興味・関心を共有し、一緒に調べたり作り上げたりすることは、素晴らしいことだと思います。本校の教育の成果がここにもしっかりと顕れています。



次に本校2年生の石田麻莉さんが『ウインター・サイエンスキャンプ報告～雪結晶から地球環境まで～』と題して発表を行いました。石田さんは1月に、独立行政法人科学技術振興機構の主催で、国立大学法人北見工業大学工学部で行われたプログラムに参加し、厳冬の道東という日本の中でも最も寒い場所・時期での驚きに満ちた体験や、日本中から集まってきた高校生との交流を、いきいきと素敵に語ってくれました。

最後に財団法人大阪みどりのトラスト協会の天満和久博士により『能勢の自然の豊かさ』と題する講演が行われ、三草山にいかにも多くの蝶が生息しているかをはじめとして、改めて能勢が大阪有数の自然の宝庫であることを認識しました。能勢の環境保全及び能勢からの情報発信について、これまでも能勢高校はその一翼を担ってきましたが、さらに大きな働きができればと思いました。

会場には無料で持ち帰ることのできるボールペンやノート、トイレットペーパーやティッシュペーパーなども用意されていて、それらは資源再生利用によるものでした。ありがとうございました。

なお、午後からは同じ浄るりシアターで倉本総さん脚本・演出、三倉茉奈さんと佳奈さん主演の演劇『オンディーヌを求めて』があり、本校生徒と教員も観劇しました。この公演は倉本さんの能勢に対する深く熱い思いがあって実現したそうです。劇終了後にはおふたりと握手もでき、みなさん感激していました。